

7	都内専門学校の学生数の推移（教育・社会福祉／商業実務）	48
8	都内専門学校の学生数の推移（服飾・家政／文化・教養）	50
9	都内高等専修学校の現状	52
10	都内各種学校の現状	54
11	都内各種学校の現状（区市別）	56

第Ⅲ部 調査研究事業部「在籍調査」等から

1	[専門課程編] 入学者の状況 (1)	58
2	[専門課程編] 入学者の状況 (2)	60
3	[専門課程編] 卒業者の状況 (1)	62
4	[専門課程編] 卒業者の状況 (2)	64
5	[専門課程編] 留学生の状況	66
6	[高等課程編] 入学者の状況	68
7	[高等課程編] 卒業者の状況	70
8	[各種学校編] 入学者・卒業者の状況	72
9	都内の専修学校・各種学校の学納金	74
10	専修学校の情報公開・評価の実施状況	76
11	専門学校における企業内実習実施状況	78

※本書における%の数値は小数点以下2位を四捨五入して表記しているため、合計値が100%にならない場合があります。

第Ⅰ部

専修学校関連データ集  
【全国編】

[資料] 文部科学省学校基本調査

# 日本の学校教育人口

日本の学校教育人口

## ■ 学校教育総人口は約 1,851 万人。

2020年度の学校教育総人口は18,514,963人で5年連続の減少。加速する少子化を反映して、前年より実数では163,635人減、下げ幅は0.9ポイントと、この5年間で最大の落ち込みとなった。

学校種13のうち在籍者数が増加したのは幼保連携型認定こども園、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校、専修学校の5学種で、前年度に昨対増を示した5学種の中で大学のみが6年ぶりに反転。3,063人減少して2,915,605人になった。専修学校は2年連続の増加で、高等教育機関に位置する専修学校専門課程（専門学校）に限ると3年連続でプラス成長と好調を維持している。専修学校全体では1,481人増だが、専門学校では6,545人増加し、2007年以来の60万人台に乗せた。短期大学の在籍者数は5,417人減って107,596人になった。

高等教育機関以外では、幼保連携型認定こども園が759,013人とついに70万人台を突破したが、増加数は63,799人で、直近2年の9万人規模のプラスと比較すると、やや勢いが落ち着いたと言える。小学校と中学校の9年間で共通の教育課程で学ぶ義務教育学校は2016年の統計開始以来、在籍者数を増やし続けており、2020年度も8,930人増加して5万人台を超えるのが目前だ。13学種のうち、過去最大の在籍者数となったのは幼保連携型認定こども園、義務教育学校、特別支援学校の3つ。逆に小学校、中学校、各種学校は過去最少となった。

## ■ 3,115校の専修学校に約66万人が学ぶ

学校総数は56,809校。103校減って6年ぶりに減少した。前年より増えたのは幼保連携型認定こども園、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校、大学の5つで、専修学校は22校減の3,115校になった。

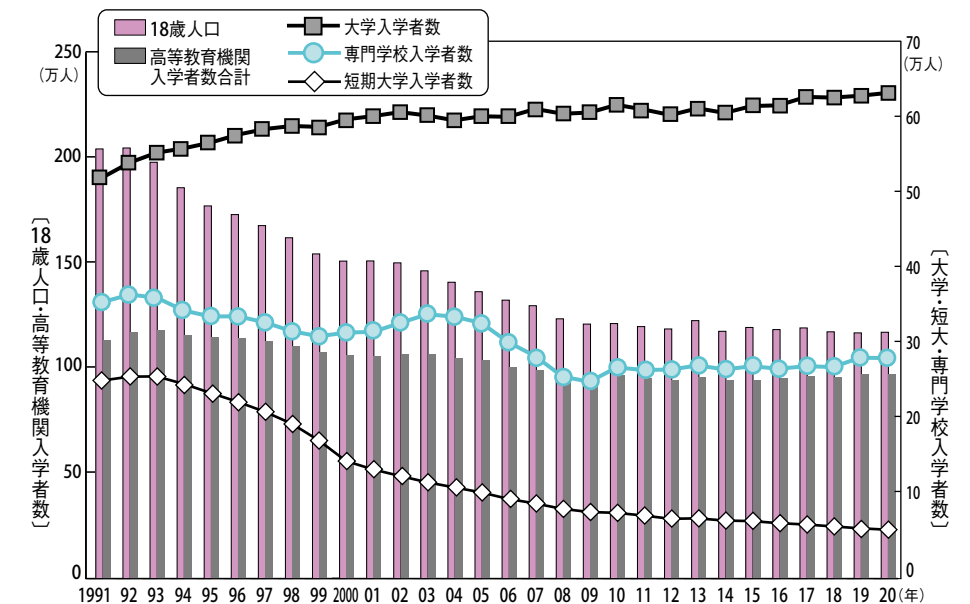
本務教員数は全体で10,832人の増加。幼稚園、中学校、高等学校、専修学校、短期大学、高等専門学校の6学種で減少しており、必ずしも在籍者数の推移と比例していない。専修学校の教員数は40,824人で、教員1人あたりの在籍者数は16.2人である。

日本の学校教育人口

	学校数(校)			在籍者数(人)			本務教員数(人)	
	2020年度	(2019年度)	対前年比増減	2020年度	(2019年度)	対前年比増減	2020年度	(2019年度)
総数	56,809	(56,912)	▲103	18,514,963	(18,678,598)	▲163,635	1,454,899	(1,444,067)
幼稚園	9,698	(10,070)	▲372	1,078,496	(1,145,576)	▲67,080	91,785	(93,579)
幼保連携型認定こども園	5,847	(5,276)	571	759,013	(695,214)	63,799	120,785	(109,515)
小学校	19,525	(19,738)	▲213	6,300,693	(6,368,550)	▲67,857	422,554	(421,935)
中学校	10,142	(10,222)	▲80	3,211,219	(3,218,137)	▲6,918	246,814	(246,825)
義務教育学校	126	(94)	32	49,677	(40,747)	8,930	4,486	(3,520)
高等学校	4,874	(4,887)	▲13	3,092,064	(3,168,369)	▲76,305	229,245	(231,319)
中等教育学校	56	(54)	2	32,426	(32,153)	273	2,683	(2,642)
特別支援学校	1,149	(1,146)	3	144,823	(144,434)	389	85,933	(85,336)
専修学校	3,115	(3,137)	▲22	661,174	(659,693)	1,481	40,824	(41,104)
各種学校	1,102	(1,119)	▲17	105,203	(116,920)	▲11,717	8,866	(8,821)
大学	795	(786)	9	2,915,605	(2,918,668)	▲3,063	189,599	(187,862)
短期大学	323	(326)	▲3	107,596	(113,013)	▲5,417	7,211	(7,440)
高等専門学校	57	(57)	0	56,974	(57,124)	▲150	4,114	(4,169)

※通信教育を除く。※大学の学生数には学部学生のほか大学院、専攻科及び別科の学生並びに聴講生等を含む。  
※短期大学の学生数には本科学生のほか専攻科及び別科の学生並びに聴講生等を含む。

18歳人口および高等教育機関への入学者数の推移



## ■ 全国の専門学校は 2,779 校。96%が私立に在籍

全国に開設する専門学校は 2,779 校。国立、公立の数は前年と変わらないが、私立が 26 校減少した。しかし私立は 2,586 校と全体の 93.1% を占め、国立 9 校、公立 184 校を圧している。専門学校の大きな特色は時代のニーズにいち早く対応した柔軟な職業教育を提供することで、特に私学は新学科設置等が迅速、かつどちらかというと小規模校が多いことから、他の学校種と比べても私立大学の 615 校 (77.4%)、私立短期大学の 306 校 (94.7%) を実数でははるかに上回っている。

学生数の割合では専門学校の私立占有率が最も多く 96.1%。大学は 78.1%、短期大学は 94.8% である。入学者数も私立専門学校が 96.9% で、私立大学 79.2%、私立短期大学 94.8% を上回っている。

## ■ 専門学校の学生数が 3 年連続で増加

専門学校の学生数は 3 年連続で増加した。前年より 6,545 人、1.1 ポイント増えて 604,415 人に達している。学生数が 60 万人台を超えたのは 2007 年の 627,397 人以来、実に 13 年ぶりである。大学 (学部のみ)、短期大学を加えた高等教育機関の学生数は 3,332,858 人になるが、このうち 18.1% を専門学校生が占めている。

一方、大学の学生数は全体では 3,063 人減少したが、学部のみに限ると 2,623,572 人 (14,424 人増) で、6 年連続して過去最高を更新した。大学全体では大学院および専攻科の学生数がほぼ横ばいで、別科が 1,026 人減の 3,694 人、聴講生等の「その他」が 16,438 人減の 32,908 人と落ち込んでいるので、全体数マイナスの要因は別科と「その他」にあると言える。短期大学は 104,871 人で過去最少を記録した。

入学者数は、大学が前年より増加、専門学校と短期大学が前年より減少した。大学は実数で 3,730 人、伸び率で 0.6 ポイント増加し、逆に専門学校は 421 人マイナスの 0.2 ポイント減、短期大学は 1,811 人マイナスの 3.5 ポイント減となった。学生規模から見ても専門学校より短期大学の落ち込みが大きく、特に今年度は 5 万人台を割ってしまった。

高等教育機関の学校数・学生数・入学者数(2020年度)

	学校数(校)				学生数(人)			
	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計
専門学校	9	184	2,586	2,779	299	23,293	580,823	604,415
	0.3%	6.6%	93.1%	100%	0.05%	3.9%	96.1%	100%
大学	86	94	615	795	435,162	139,694	2,048,716	2,623,572
	10.8%	11.8%	77.4%	100%	16.6%	5.3%	78.1%	100%
短期大学	0	17	306	323	0	5,434	99,437	104,871
	-	5.3%	94.7%	100%	-	5.2%	94.8%	100%

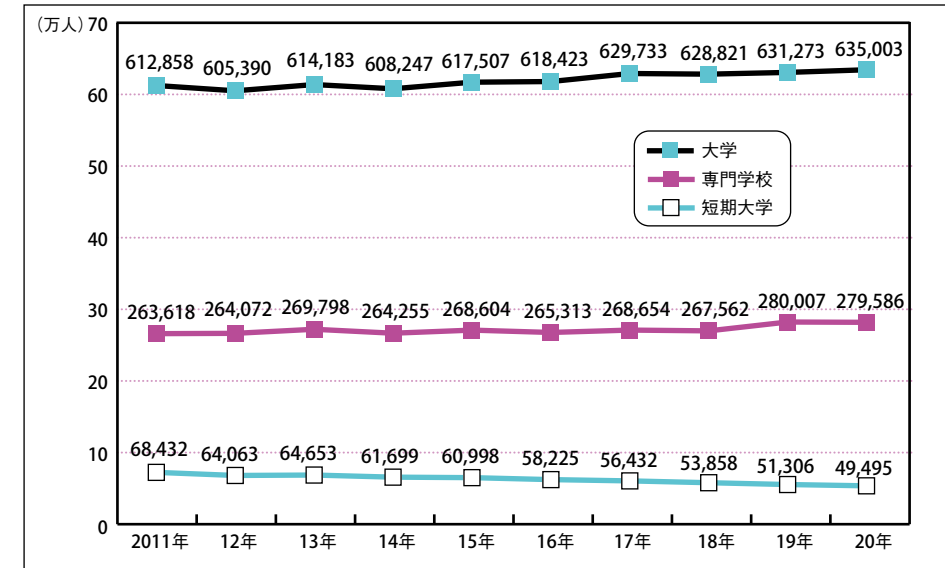
(注)大学の学生数は学部のみ、短期大学の学生数は本科のみ。

	入学者数(人)			
	国立	公立	私立	計
専門学校	126	8,538	270,922	279,586
	0.05%	3.1%	96.9%	100%
大学	98,365	33,439	503,199	635,003
	15.5%	5.3%	79.2%	100%
短期大学	0	2,576	46,919	49,495
	-	5.2%	94.8%	100%

高等教育機関の学校数・学生数の推移

	学校数(校)			学生数(人)		
	専門学校	大学	短期大学	専門学校	大学	短期大学
2011年	2,837	780	387	574,152	2,569,349	145,047
12年	2,847	783	372	578,119	2,560,909	137,282
13年	2,811	782	359	587,330	2,562,068	133,714
14年	2,814	781	352	588,888	2,552,022	131,341
15年	2,823	779	346	588,183	2,556,062	127,836
16年	2,817	777	341	589,050	2,567,030	124,374
17年	2,822	780	337	588,223	2,582,670	119,728
18年	2,805	782	331	588,315	2,599,684	114,774
19年	2,805	786	326	597,870	2,609,148	109,120
20年	2,779	795	323	604,415	2,623,572	104,871

高等教育機関の入学者数の推移



# 高等教育機関の現状(都道府県別)

高等教育機関の現状(都道府県別)

## ■ 専門学校は8地域で前年より増加

学校数の多い順に都道府県を並べると次のようになる。

〈専門学校〉①東京都 359校 ②大阪府 211校 ③愛知県 162校 ④北海道 141校 ⑤福岡県 138校。〈大学〉①東京都 143校 ②大阪府 55校 ③愛知県 51校 ④北海道 37校 ⑤兵庫県 36校。〈短期大学〉①東京都 37校 ②大阪府 23校 ③愛知県 19校 ④福岡県 18校 ⑤兵庫県 17校。いずれも上位3つを東京都、大阪府、愛知県が占めている。特に東京には、高等教育機関の13.8%(539校)が開校している。

さらに東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県首都圏に広げると、総数の24.1%(940校)を占める。学種別内訳では、専門学校640校(23.0%)、大学229校(28.8%)、短期大学71校(22.0%)となり、3割近い大学と比較すると、専門学校と短期大学には若干、地方分散の傾向が見られる。

全国で見ると前年より専門学校数が増加したのは8地域。宮城県が4校、新潟県・岡山県・山口県・沖縄県が2校、茨城県・大阪府・広島県が1校の合計15校である。減少したのは20地域41校で、そのうち3校以上減少したのは6校の北海道、4校の千葉県のほか、青森県・東京都・愛知県・滋賀県・福岡県がいずれも3校。合計では26校マイナスとなった。

## ■ 高等教育機関の学生の4分の1が東京で学ぶ

学生数でも、東京都、大阪府、愛知県が上位にランクされる。特に東京で学ぶ学生数は高等教育機関全体で823,749人。前年より3,794人増加し、占有率は24.7%に達する。約4人に1人が東京で学んでいるのである。

学種別に見ると、東京で学ぶ専門学校生は全体の23.1%、大学生が25.7%、短大生が10.0%。首都圏に広げると、専門学校33.7%、大学40.6%、短期大学22.3%となり、高等教育機関在籍者の38.8%が首都圏に集中している。

入学者数でも全体の37.9%が首都圏の高等教育機関に進学。東京に限ると23.4%で、専門学校は24.5%、大学は23.9%、短期大学は10.1%の割合である。

高等教育機関の都道府県別学校数・学生数・入学者数(2020年度)

	専門学校			大学			短期大学		
	学校数	学生数	入学者数	学校数	学生数	入学者数	学校数	学生数	入学者数
北海道	141	23,617	10,513	37	79,409	19,488	15	4,463	2,209
青森県	24	2,012	833	10	15,400	3,455	5	1,018	466
岩手県	32	4,560	2,150	6	11,489	2,623	5	751	369
宮城県	64	15,683	7,736	14	49,410	12,009	5	2,613	1,148
秋田県	16	1,264	497	7	8,884	2,048	4	563	276
山形県	19	1,953	848	6	11,723	2,808	3	1,143	532
福島県	39	5,088	2,082	8	14,288	3,334	5	1,588	753
茨城県	61	8,342	3,745	10	30,258	7,302	3	760	376
栃木県	51	7,967	3,777	9	20,388	4,947	6	1,700	838
群馬県	61	10,702	4,936	14	28,312	7,083	8	1,659	816
埼玉県	97	19,551	9,034	28	111,852	30,023	12	3,993	1,829
千葉県	83	19,378	9,381	27	104,866	27,609	8	3,145	1,561
東京都	359	139,616	68,515	143	673,683	151,714	37	10,450	5,007
神奈川県	101	25,237	11,599	31	174,710	46,894	14	5,754	2,515
新潟県	76	13,893	6,281	21	27,153	6,605	5	1,417	671
富山県	23	2,946	1,207	5	10,739	2,568	2	1,123	513
石川県	34	4,808	2,251	13	27,369	6,793	5	1,440	718
福井県	19	1,443	670	6	10,068	2,454	1	459	231
山梨県	21	2,289	1,010	7	16,126	4,323	3	1,044	525
長野県	57	6,106	2,842	10	16,388	4,008	9	2,415	1,114
岐阜県	31	3,365	1,421	13	19,827	5,051	11	3,596	1,513
静岡県	81	12,528	5,596	13	33,809	8,281	6	1,991	949
愛知県	162	42,377	18,822	51	177,380	43,014	19	6,800	3,006
三重県	36	3,391	1,520	7	14,064	3,374	4	1,415	700
滋賀県	18	1,732	642	9	31,100	7,630	3	825	442
京都府	53	15,022	6,455	34	141,870	34,470	11	3,433	1,694
大阪府	211	69,509	33,055	55	226,452	56,154	23	9,575	4,513
兵庫県	80	18,015	8,293	36	116,299	28,145	17	5,866	2,835
奈良県	28	2,429	909	11	20,655	5,140	3	1,229	516
和歌山県	20	2,299	964	4	7,524	1,868	1	351	149
鳥取県	15	1,339	487	3	6,736	1,572	1	555	289
島根県	19	2,255	858	2	7,098	1,692	1	171	85
岡山県	48	9,037	4,003	18	39,347	9,566	9	2,166	1,023
広島県	69	11,744	5,370	20	55,652	13,477	5	1,521	729
山口県	36	3,749	1,395	10	18,546	4,568	5	780	387
徳島県	15	1,792	707	4	11,867	2,707	3	715	358
香川県	25	3,831	1,516	4	9,129	2,134	2	761	358
愛媛県	32	4,387	1,893	5	16,254	3,927	5	1,068	522
高知県	23	2,807	1,120	5	9,086	2,242	1	583	186
福岡県	138	40,076	18,839	34	110,156	26,818	18	6,445	3,169
佐賀県	23	2,944	1,211	2	7,741	1,826	3	812	388
長崎県	29	3,177	1,347	8	17,128	4,029	2	763	367
熊本県	45	6,598	2,804	9	24,771	5,776	2	717	386
大分県	41	3,752	1,590	5	15,278	3,207	5	1,817	869
宮崎県	32	3,609	1,630	7	9,924	2,314	2	655	325
鹿児島県	38	6,252	2,527	6	15,432	3,682	4	1,927	870
沖縄県	53	9,944	4,705	8	17,932	4,251	2	836	400
合計	2,779	604,415	279,586	795	2,623,572	635,003	323	104,871	49,495

(注)大学の学生数、入学者数は学部のみ。短期大学の学生数、入学者数は本科のみ。



# 高校生の進路状況

## ■ 専門学校に進学率が2年連続で上昇

2020年度の高等学校および中等教育学校の新卒者数は1,042,549人。前年より13,258人(1.3ポイント)減少した。しかしながら新卒者の進路状況のうち、専門学校、大学、短期大学を合わせた高等教育機関の進学者数は前年より6,828人(0.9ポイント)増加して752,503人を記録。これにより高等教育機関の進学率は70.6%から72.2%に上昇した。

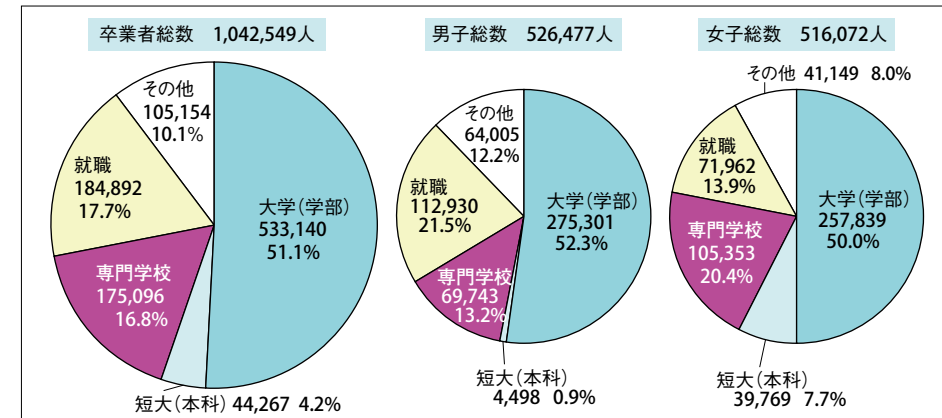
内訳を見ると大学(学部)と専門学校が前年より実数・進学率ともに上昇した。大学は7年連続、専門学校は2年連続のプラス成長である。大学は5,683人増の51.1%(1.1ポイント増)で過去最高となり、専門学校と短期大学を入れた高等教育機関の7割超を占める。専門学校は2,757人増の16.8%(0.5ポイント増)で、この10年では17.0%に次ぐ2番目の高率だが、過年度卒を含むと24.0%で過去最高を更新している。なお過年度卒を含むと大学進学率は54.4%、高等教育機関全体(高等専門学校も含む)が83.5%でいずれも過去最高である。2020年度は教育機関も新型コロナウイルス感染症の対応に追われた年となったが、進学状況はむしろ好調。利用者数はまだ公表されていないが、2020年4月からスタートした高等教育の修学支援新制度や、コロナ禍を踏まえた学生支援緊急給付金の創設などが進学率にどう影響したか気になるところである。一方で就職者の実数は331人減少したものの、就職率は0.2ポイント増の17.7%とわずかながら上昇。そのぶん「その他」が11.8%から10.1%に減少している。

## ■ 総合学科では3割近くが専門学校に進学

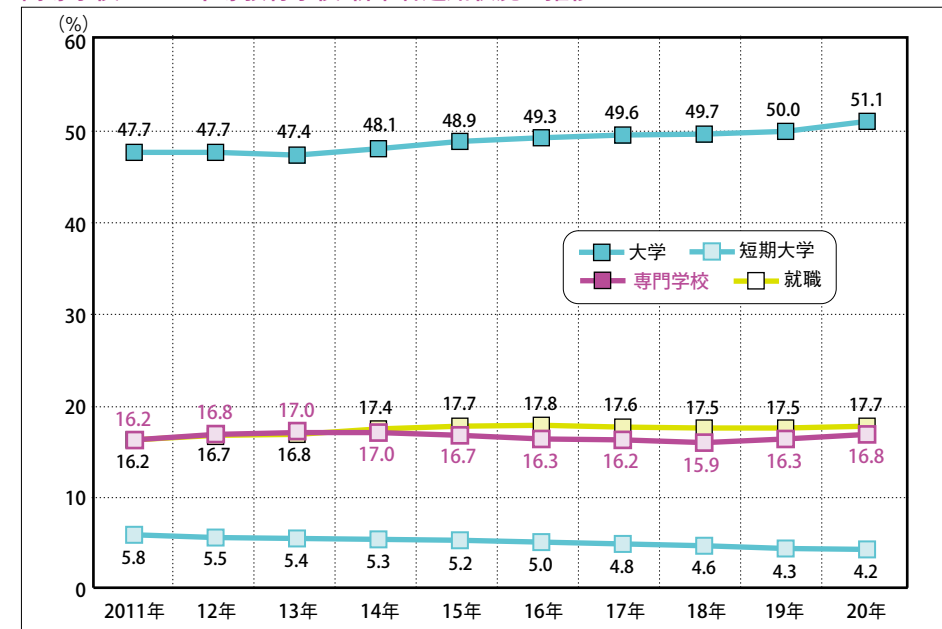
進路状況を男女別に見ると、高等教育機関の進学率は男子66.4%、女子78.1%で、女子の進学率が男子を11.7ポイント上回っている。専門学校の進学率は男女とも前年より上昇し、特に女子は2割を超えた。

出身学科別では、普通科の大学進学率が61.1%と6割を突破。逆に就職率が最も高いのは工業科、商業科、総合学科で、特に工業科は68.5%と7割に迫っている。専門学校の進学率が最も高いのは総合学科で28.1%。商業科も25.5%と高く、以下、通信制課程23.3%、普通科15.5%と続く。

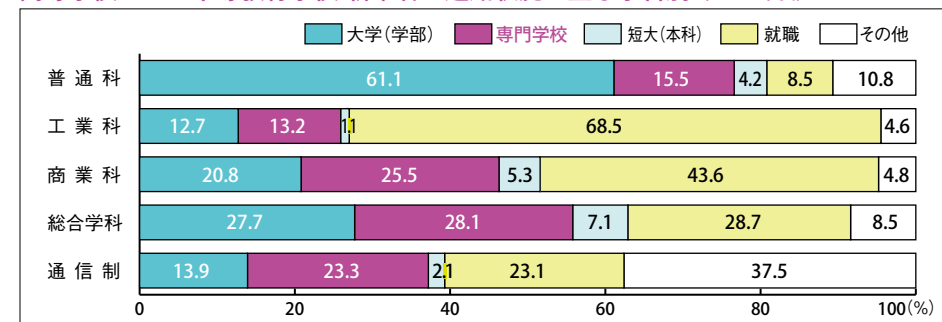
高等学校および中等教育学校 新卒者の男女別進路状況 (2020年度)



高等学校および中等教育学校 新卒者進路状況の推移



高等学校および中等教育学校 新卒者の進路状況・主な学科別 (2020年度)



# 高等教育機関への進学率(都道府県別)

高等教育機関への進学率(都道府県別)

## ■ 20 都府県で進学率が7割を超える

2020年3月の高等学校および中等教育学校の新規卒業生における専門学校、大学(学部)、短期大学(本科)の全国平均進学率は72.2%。10人に7人以上の割合だが、地域別に見るといくつかの傾向がうかがえる。

進学率が7割を超えているのは21都府県。最も高いのは京都府の81.1%で唯一8割を超えている。以下、東京78.8%、神奈川県78.7%、大阪府77.6%、埼玉県76.6%と続く。他に7割を超えているのは兵庫県、千葉県、新潟県、広島県、山梨県、奈良県、滋賀県、愛媛県、愛知県、福井県、群馬県、長野県、栃木県、富山県、石川県、福岡県の16県で、7割以上が前年より5地域増加した。7割未満は鹿児島県(59.3%)と佐賀県(59.1%)を除き、すべて6割台でその数は24道県。全体的に昨年より高めで推移している。

専門学校進学率が最も高いのは沖縄県で25.8%。以下、新潟県25.4%、長野県21.8%、北海道21.6%、島根県21.6%で、この5地域が2割を超えている。全国平均16.8%以上は25道県である。逆に低いのは順に東京都の12.2%、広島県の12.6%、愛知県の13.3%で、都市部より地方の専門学校人気が高いといえる。なお大学進学率は東京都、京都府の2つが6割超えで突出している。

## ■ 専門学校、大学の進学者数ともに東京が最多

専門学校の進学者数が最も多いのは、東京都の12,316人。以下、神奈川県(11,737人)、大阪府(11,566人)、埼玉県(10,384人)の順で、この4都府県が1万人を超えている。5位の千葉県も9,412人と1万人に近く、大阪府以外は首都圏であることから、逆に大阪府の健闘ぶりが目立ち、自治体と力を合わせて職業教育の振興に力を入れてきた成果がうかがえる。8千人台は北海道(8,669人)と愛知県(8,410人)の2つである。

大学(学部)の進学者数ベスト5は、東京都(65,530人)、大阪府(41,060人)、神奈川県(38,113人)、愛知県(34,901人)、埼玉県(30,715人)で、5位まではすべて3万人を超えている。

高等学校および中等教育学校 新卒者の都道府県別高等教育機関進学率(2020年度)

	2020年3月 卒業生数	専門学校			大学(学部)			高等教育機関進学率※	
		進学者数	進学率	進学率増減	進学者数	進学率	進学率増減	進学率	進学率増減
北海道	40,199	8,669	21.6	-0.1	17,232	42.9	1.8	69.0	1.4
青森県	11,314	1,785	15.8	1.0	4,616	40.8	0.9	61.3	1.3
岩手県	10,876	2,162	19.9	0.2	4,282	39.4	1.4	64.1	1.6
宮城県	19,363	3,454	17.8	0.8	8,807	45.5	0.4	67.7	1.3
秋田県	7,814	1,372	17.6	0.5	3,039	38.9	0.3	62.3	-0.1
山形県	9,791	1,872	19.1	0.6	3,912	40.0	2.1	64.6	2.2
福島県	16,479	2,711	16.5	0.1	6,559	39.8	0.2	61.7	0.2
茨城県	25,001	4,580	18.3	0.0	12,238	49.0	0.9	69.9	0.9
栃木県	17,354	3,253	18.7	1.6	8,313	47.9	-0.1	70.8	1.2
群馬県	17,170	3,044	17.7	-1.0	8,378	48.8	1.9	71.3	0.8
埼玉県	56,643	10,384	18.3	0.5	30,715	54.2	1.1	76.6	1.6
千葉県	48,289	9,412	19.5	0.4	25,317	52.4	0.9	75.3	1.3
東京都	101,281	12,316	12.2	0.6	65,530	64.7	1.5	78.8	2.1
神奈川県	66,293	11,737	17.7	1.4	38,113	57.5	0.4	78.7	1.7
新潟県	18,854	4,794	25.4	-0.1	8,408	44.6	1.9	74.2	1.7
富山県	9,192	1,469	16.0	-0.7	4,351	47.3	3.0	70.6	2.0
石川県	10,418	1,518	14.6	0.8	5,221	50.1	2.1	70.6	2.3
福井県	7,260	1,091	15.0	0.2	3,737	51.5	1.3	71.5	1.3
山梨県	7,888	1,316	16.7	-0.3	4,071	51.6	1.2	73.4	1.0
長野県	18,585	4,057	21.8	-0.1	7,791	41.9	1.8	71.1	1.6
岐阜県	17,778	2,417	13.6	0.4	8,900	50.1	0.6	69.7	1.2
静岡県	31,854	5,260	16.5	-0.7	15,759	49.5	1.4	69.8	0.6
愛知県	63,406	8,410	13.3	0.7	34,901	55.0	1.2	72.0	1.6
三重県	15,384	2,256	14.7	0.1	7,055	45.9	1.6	65.3	1.6
滋賀県	12,786	2,113	16.5	-0.4	6,521	51.0	1.7	73.0	1.4
京都府	22,541	3,111	13.8	0.4	14,155	62.8	1.9	81.1	2.3
大阪府	72,659	11,566	15.9	0.5	41,060	56.5	2.3	77.6	2.7
兵庫県	45,077	6,336	14.1	0.7	26,108	57.9	1.4	76.4	2.2
奈良県	11,830	1,604	13.6	0.5	6,508	55.0	0.8	73.1	1.0
和歌山県	8,482	1,523	18.0	0.5	3,965	46.7	3.3	69.0	3.4
鳥取県	4,805	904	18.8	0.1	1,794	37.3	1.2	63.6	2.1
島根県	5,949	1,287	21.6	0.3	2,369	39.8	-0.3	66.3	-0.6
岡山県	17,451	3,149	18.0	2.0	8,270	47.4	-0.3	69.1	1.5
広島県	23,356	2,939	12.6	0.7	13,443	57.6	0.4	73.6	1.3
山口県	11,172	1,871	16.7	0.7	4,343	38.9	1.8	60.1	1.9
徳島県	6,173	998	16.2	-0.2	3,008	48.7	1.3	69.3	1.3
香川県	8,355	1,319	15.8	-0.2	4,054	48.5	2.9	69.6	3.1
愛媛県	11,436	2,209	19.3	0.5	5,592	48.9	0.9	72.9	1.3
高知県	6,036	972	16.1	-1.2	2,732	45.3	3.8	66.1	1.6
福岡県	41,909	7,407	17.7	0.8	19,988	47.7	0.0	70.3	0.7
佐賀県	7,976	1,310	16.4	-0.2	3,054	38.3	-0.5	59.1	-0.8
長崎県	12,161	2,136	17.6	0.9	5,005	41.2	1.3	63.0	2.1
熊本県	14,931	2,678	17.9	-0.5	6,141	41.1	-0.5	62.5	-0.7
大分県	9,962	1,921	19.3	0.6	3,859	38.7	1.4	65.5	2.3
宮崎県	10,080	1,791	17.8	0.4	3,800	37.7	0.5	60.4	0.5
鹿児島県	14,427	2,871	19.9	0.4	4,717	32.7	0.6	59.3	0.3
沖縄県	14,509	3,742	25.8	1.7	5,409	37.3	1.5	66.3	2.8
合計	1,042,549	175,096	16.8	0.5	533,140	51.1	1.1	72.2	1.6

※専門学校、大学(学部)、短期大学(本科)進学者の合計

# 高等教育機関卒業生の進路状況

## ■ 専門学校就職率は79.4%

専門学校の2020年3月卒業生の就職率は79.4%。前年より0.3ポイント減と下降率は緩やかだが5年連続で減少した。逆に大学卒業生は10年連続して増加し、今年度は79.2%と過去最高を更新した。その差は0.2ポイントと近似値だが、大学生の採用は出身学部・学科を問わない「総合職採用」が中心となるのに対し、専門学校生は専攻学科と直結する「専門職」が多いことから、単純に比較するのは難しい。あえて分析するとコロナ禍により景気に騒りが見えるなか、長期的な人材育成が図られるゼネラリストのほうがスペシャリストより採用計画が立てやすいということだろうか。

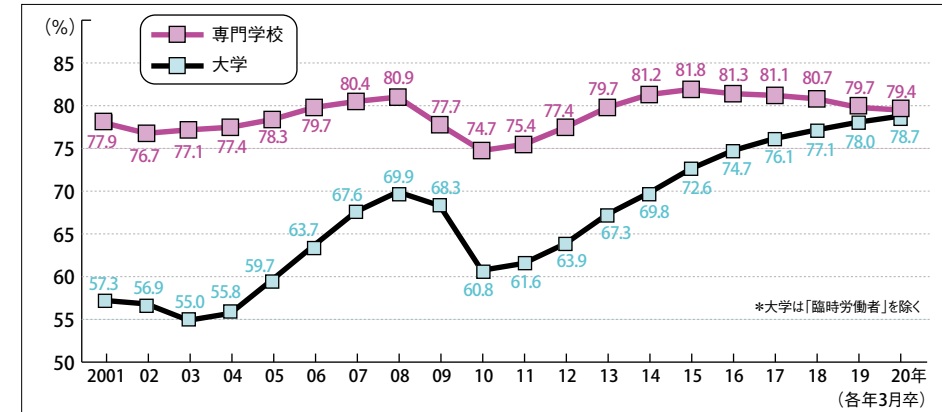
2019年度間の専門学校卒業生で、「専門分野に関連した仕事に就職」した者は全体で74.1%。分野別で最も高いのは医療関係の89.3%で、以下、教育・社会福祉関係88.0%、衛生関係85.6%、農業関係80.5%と続き、8分野中4分野が8割を超えている。これらは農業を除き、看護師や理学・作業療法士などの医療職、また理美容師、調理師、保育士、介護福祉士など、いずれも国家資格が必要な職業が大半を占める分野だ。資格取得にも就職にも強い、専門学校の特徴がいかななく発揮されている分野とも言えるだろう。

一方、2020年3月時点で就職した大学卒業生は全体の78.7%。前年より0.7ポイント上昇した。系統別では主な9系統のうち、家政系(91.5%)、教育系(88.5%)、社会科学系(87.6%)、人文科学系(83.9%)の4系統の就職率が全体平均を上回っている。芸術系(66.6%)を例外とすると平均値超えはすべて文系で、前年と変わらない好調が続いている。理系の工学系は60.1%、理学系は52.6%と文系に比べて低い。理工学系は特に研究・開発職採用において修士以上が有利とされることから大学院に進む者も多い。

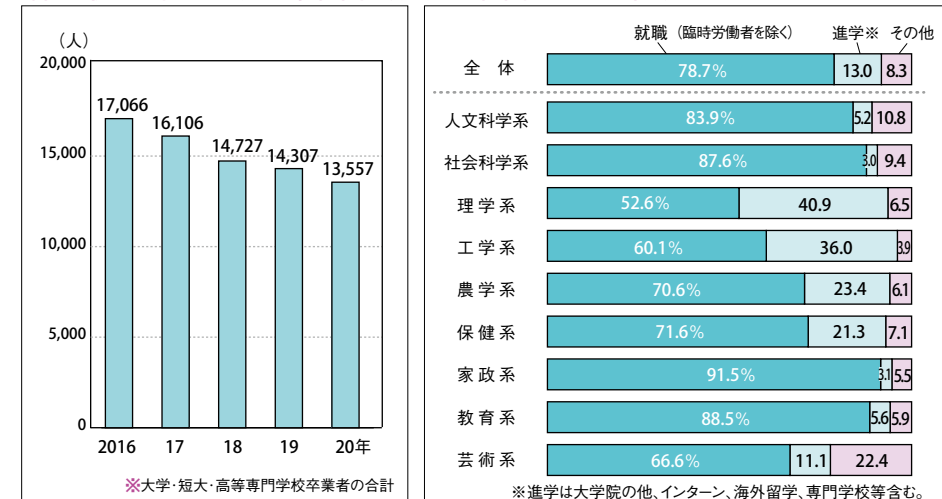
## ■ 専門学校からの大学編入者が増加

大学卒業後に専門学校に入学する者は13,557人。大学新卒就職の好調にとともに10年連続で減少した。逆に専門学校から大学への編入者数は2年ぶりに好転して1,567人。この5年間で最高値となった。

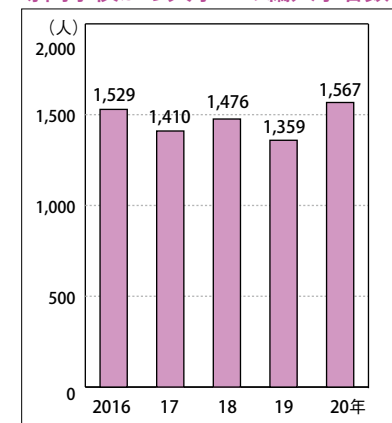
高等教育機関卒業生の就職率の推移(全就職者/全卒業生)



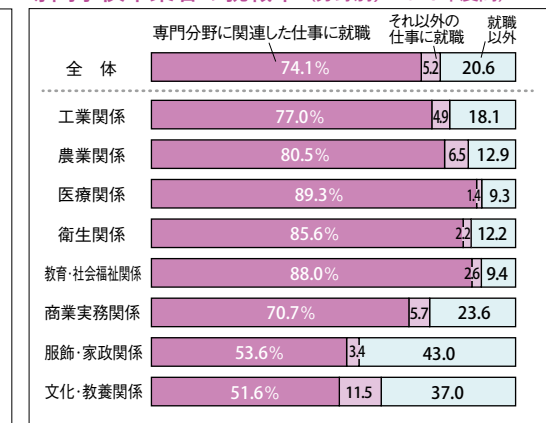
専門学校入学者のうち大学等卒業生\*数 大学卒業生の進路別内訳(主な学部系統別/2020年3月)



専門学校から大学への編入者数



専門学校卒業生の就職率(分野別/2019年度間)





# 専門学校数・学生数(都道府県別・修業年限別)

専門学校数・学生数(都道府県別・修業年限別)

## ■ 職業実践専門課程の認定校が1千校を突破

専門学校では2014年4月から文部科学大臣が認定する職業実践専門課程がスタートした。これは学科認定だが、1つでも認定学科を持つ学校数で見ると2020年度までの設置校数は1,037校。遂に1千校を超え、学校数に占める割合は前年の35.4%から37.3%に上昇した。地域別では4割を超えているのが15地域で、前年より2つ増加した。

設置割合が多い順に並べると、①徳島県(60.0%)、②岩手県(50.0%)、③大阪府(49.3%)、④北海道(48.9%)、⑤佐賀県(47.8%)となるが、設置率はその地域の学校総数により差が出るので、学校数で並べると東京都の141校、大阪府の104校が突出している。特に大阪府は設置率でも5割に迫る。前年より設置校数が最も増えたのは、東京都の9校である。

職業実践専門課程の認定学科数は、文部科学省の最新資料(令和3年3月25日現在)によると令和2年度までで3,149学科(1,070校)。修業年限2年以上の全学科数(7,446学科)に占める割合は42.3%である。

単位制の学科は静岡県を除く全都道府県で実施され、合計160,821人が学んでいる。地域別では東京都の20,386人、愛知県の19,926人、福岡県の15,675人が他を大きく引き離している。通信制は8地域のみで実施され、学生数も673人と小規模である。

## ■ 東京都の学生数は14万人近く

都道府県別の学生数は前年より増加したのが25地域、減少したのが22地域。学生数が前年より千人単位の規模で増えたのは東京都の2,426人増、福岡県の1,882人増で、特に福岡県の学生数は4万人を突破。東京都は139,616人と14万人台に迫っている。

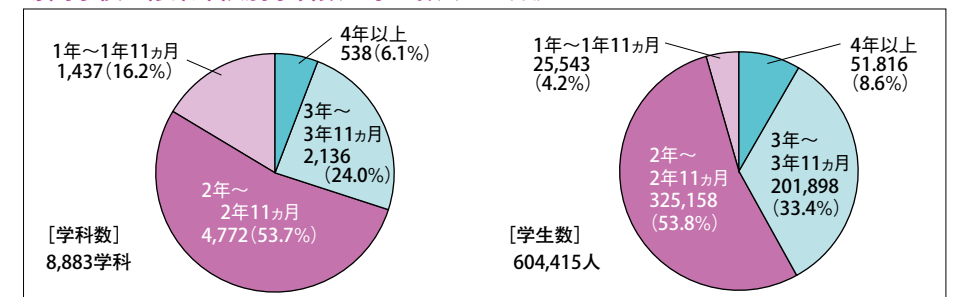
修業年限別の学科数で最も多く開設しているのは「2年～2年11ヵ月」の4,772学科(53.7%)。学生数は325,158人で53.8%を占めている。続く「3年～3年11ヵ月」の学生数は201,898人で、この2つで87.2%を占める。「4年以上」および「1年～1年11ヵ月」の合計は77,359人である。

都道府県別専門学校数・学生数(2020年度)

	学校数(前年比増減)	内、職業実践専門課程設置校数※(前年比増減)と全体に占める割合	学生数(前年比増減)	内、単位制学科学生数	内、通信制学科学生数
北海道	141 (-6)	69 (3) 48.9%	23,617 (-17)	2,780	0
青森県	24 (-3)	5 (0) 20.8%	2,012 (-7)	1,355	0
岩手県	32 (0)	16 (4) 50.0%	4,560 (-143)	2,445	0
宮城県	64 (4)	27 (0) 42.2%	15,683 (822)	7,257	0
秋田県	16 (-1)	2 (1) 12.5%	1,264 (-53)	792	0
山形県	19 (-1)	7 (2) 36.8%	1,953 (18)	1,321	0
福島県	39 (0)	10 (0) 25.6%	5,088 (-60)	2,858	0
茨城県	61 (1)	15 (0) 24.6%	8,342 (-98)	3,884	121
栃木県	51 (0)	15 (0) 29.4%	7,967 (148)	3,988	0
群馬県	61 (-1)	28 (1) 45.9%	10,702 (544)	4,623	0
埼玉県	97 (0)	32 (0) 33.0%	19,551 (299)	1,272	0
千葉県	83 (-4)	28 (1) 33.7%	19,378 (734)	7,418	0
東京都	359 (-3)	141 (9) 39.3%	139,616 (2,426)	20,386	271
神奈川県	101 (0)	44 (-1) 43.6%	25,237 (538)	3,733	39
新潟県	76 (2)	34 (0) 44.7%	13,893 (-167)	4,029	21
富山県	23 (-2)	3 (0) 13.0%	2,946 (-72)	642	0
石川県	34 (-1)	13 (0) 38.2%	4,808 (182)	989	0
福井県	19 (0)	6 (0) 31.6%	1,443 (-63)	748	0
山梨県	21 (0)	5 (1) 23.8%	2,289 (11)	1,472	0
長野県	57 (0)	24 (2) 42.1%	6,106 (-184)	3,840	0
岐阜県	31 (0)	10 (2) 32.3%	3,365 (-80)	2,116	0
静岡県	81 (0)	37 (-1) 45.7%	12,528 (290)	0	0
愛知県	162 (-3)	57 (4) 35.2%	42,377 (-1,967)	19,926	0
三重県	36 (-1)	5 (0) 13.9%	3,391 (115)	2,007	0
滋賀県	18 (-3)	0 (0) 0.0%	1,732 (-219)	1,422	0
京都府	53 (-1)	23 (0) 43.4%	15,022 (385)	3,910	32
大阪府	211 (1)	104 (2) 49.3%	69,509 (617)	4,506	80
兵庫県	80 (-1)	23 (2) 28.8%	18,015 (688)	890	0
奈良県	28 (-1)	4 (0) 14.3%	2,429 (18)	816	0
和歌山県	20 (0)	4 (0) 20.0%	2,299 (-46)	1,583	0
鳥取県	15 (0)	3 (1) 20.0%	1,339 (-124)	466	0
島根県	19 (0)	8 (0) 42.1%	2,255 (-37)	648	0
岡山県	48 (2)	13 (0) 27.1%	9,037 (89)	4,073	0
広島県	69 (1)	22 (0) 31.9%	11,744 (130)	1,420	0
山口県	36 (2)	12 (0) 33.3%	3,749 (-131)	689	0
徳島県	15 (-2)	9 (2) 60.0%	1,792 (-125)	872	0
香川県	25 (0)	11 (1) 44.0%	3,831 (37)	1,181	0
愛媛県	32 (0)	12 (0) 37.5%	4,387 (-101)	2,133	0
高知県	23 (0)	8 (2) 34.8%	2,807 (-265)	1,392	0
福岡県	138 (-3)	66 (0) 47.8%	40,076 (1,882)	15,675	0
佐賀県	23 (-1)	2 (0) 8.7%	2,944 (-26)	1,922	0
長崎県	29 (-1)	10 (2) 34.5%	3,177 (-141)	741	19
熊本県	45 (-2)	17 (1) 37.8%	6,598 (118)	3,505	0
大分県	41 (0)	14 (0) 34.1%	3,752 (36)	699	0
宮崎県	32 (0)	11 (1) 34.4%	3,609 (46)	2,340	0
鹿児島県	38 (0)	6 (0) 15.8%	6,252 (33)	3,577	0
沖縄県	53 (2)	22 (1) 41.5%	9,944 (465)	6,480	90
合計	2,779 (-26)	1,037 (43) 37.3%	604,415 (6,545)	160,821	673

※職業実践専門課程設置校数は、文部科学省資料「令和2年3月現在」の認定状況から

専門学校の修業年限別学科数と学生数(2020年度)





# 専門学校数・学生数(分野別)

専門学校数・学生数(分野別)

## ■ 学校数が最も多いのは医療分野

専門学校の中には複数の分野にわたり学科を設置するケースがあるため、分野別にカウントした学校数は、4,760校になる。総学科数は8,883学科で、前年より89学科減少した。うち3,149学科(35.4%)を職業実践専門課程が占める。

分野別学校数で最も多いのは医療分野の1,320校(構成比27.7%)。以下、文化・教養816校(17.1%)、商業実務729校(15.3%)、衛生626校(13.2%)、教育・社会福祉506校(10.6%)と上位5分野が続く。前年より学校数が増えたのは文化・教養(10校増)と商業実務(1校増)の2分野で、これにより文化・教養の構成比は16.8%から17.1%に上昇した。

なお、職業実践専門課程の分野別学科数で最も多いのは工業の678学科。文化・教養の602学科、医療の599学科、商業実務の540学科と続く。

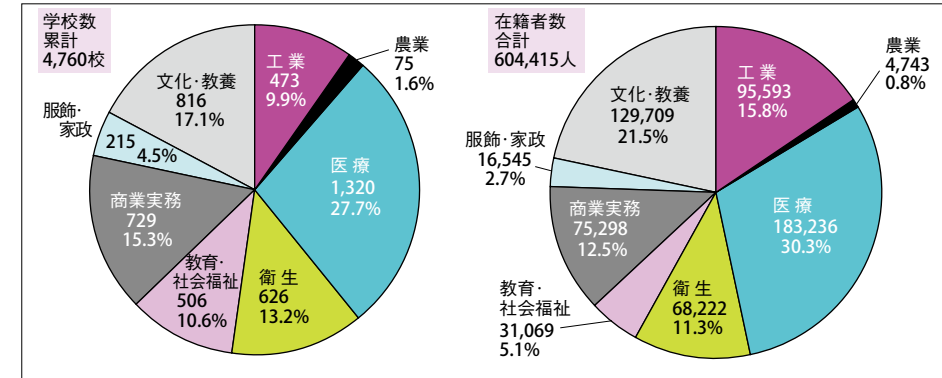
## ■ 学生数が5分野で前年より増加

学生数が前年より増えたのは、工業、衛生、商業実務、服飾・家政、文化・教養の5分野。うち衛生以外の4分野は右肩上がり続き、工業は8年連続、商業実務は6年、服飾・家政は5年、文化・教養は9年連続でプラス成長している。今年度はなかでも工業が6,018人増加し、一気に9万人台を超えて95,593人になった。これにより分野占有率も15.0%から15.8%に伸長。学生数が最も多いのは医療分野の183,236人で、これに2位の文化・教養(129,709人)と3位の工業を合計すると67.6%になり、7割近くがこの3分野で学んでいる。

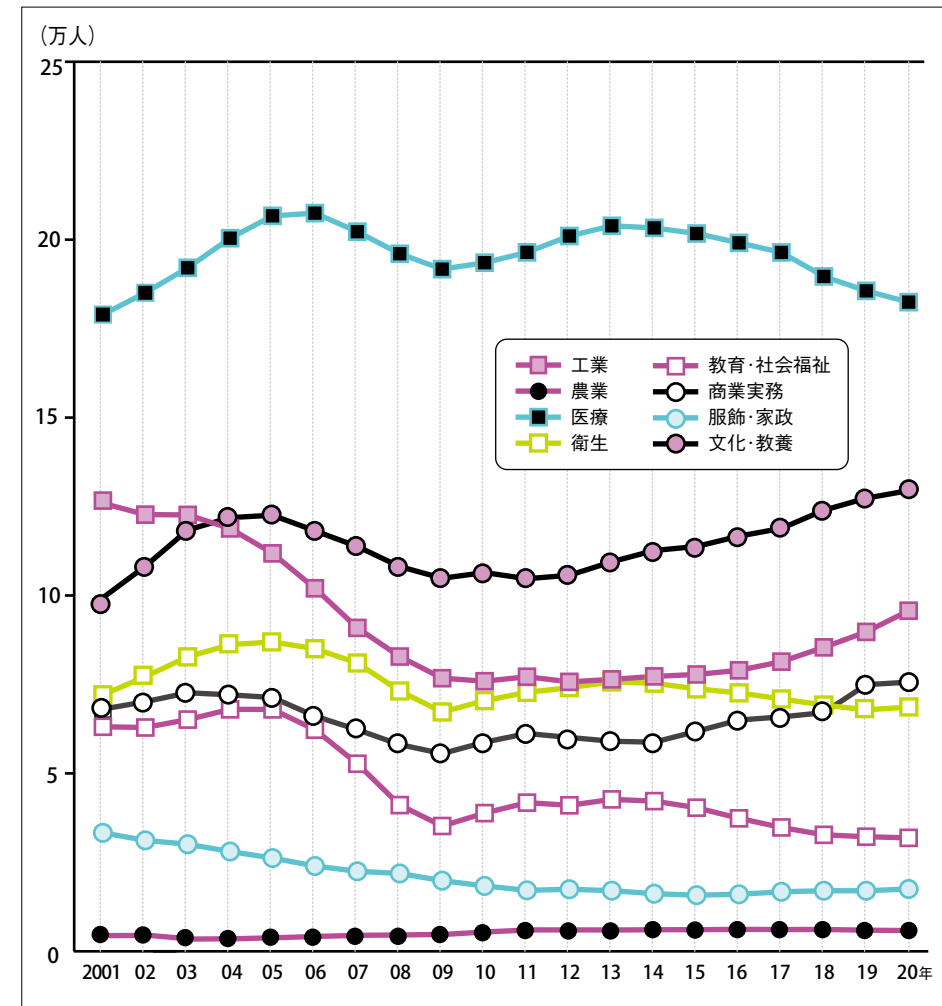
4位の商業実務は、外国人留学生にも人気の高い「旅行」「情報」「商業」などの系統があることから、新型コロナウイルス感染症による入国制限の影響が懸念されていたが、今年度は713人増加して75,298人に。占有率は12.5%で前年度と変わらない。しかし前年の昨対増加数7,975人と比べると1割程度の増加に留まっており、翳りが見えてきたのは明らかである。商業実務の占有率は前年の躍進により衛生を抜いたが、今後の動向が注目される。

5位の衛生は4年ぶりのプラス成長となり、791人増えて68,222人に。理美容や食関係といった暮らしに不可欠な職業に直結していることから、コロナ禍の影響を大きく受けずに手堅く推移している。

専門学校の分野別学校数・学生数の構成比(2020年度)



専門学校の分野別学生数の推移



# 専門学校の学生数の推移(工業／農業)

専門学校の学生数の推移(工業／農業)

## ■ 工業関係／「自動車整備」が5年ぶりに増加

学生総数は8年連続で増加して95,593人となり、ついに9万人台を突破した。前年比6,018人増、伸び率6.7ポイントはこの8年間の最高値。学生数が9万人を超えるのは2007年以来である。

系統別に見ると、9系統中6系統が増加。最も伸長したのは「情報処理」で、3,416人増加して33,266人となり、13年ぶりに3万人台を回復した。これにより関係内の構成比も33.3%から34.8%と拡大した。実数では1,372人増の「その他」(6.9ポイント増)、891人増の「土木・建築」が続く。増加率が「情報処理」に次いで高いのは「無線・通信」の8.0ポイント、「電子計算機」の7.7ポイントで、特に数千人規模の「電子計算機」は2008年以来の4千人を超えた。

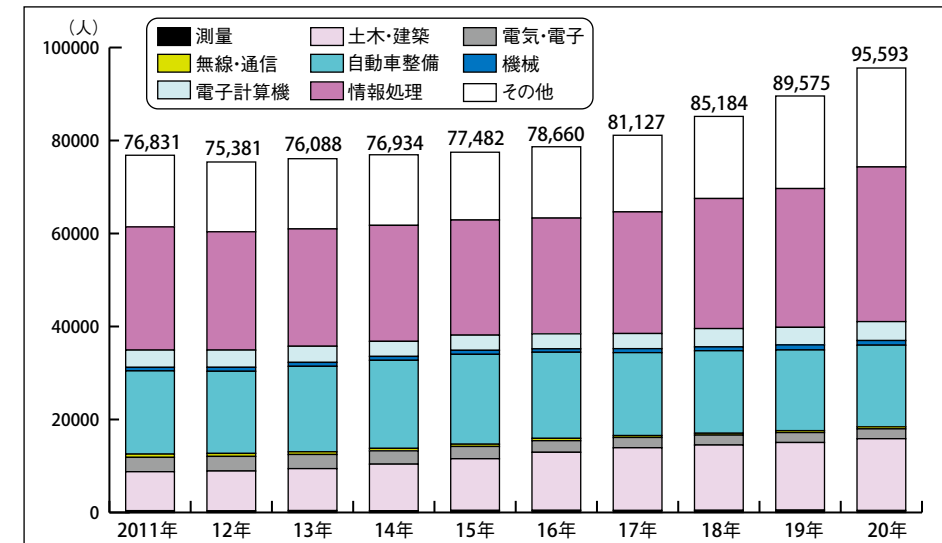
「自動車整備」は204人増で伸び率は1.2ポイントだが、注目すべきは5年ぶりにプラス成長を示したことである。背景には電気自動車や自動ブレーキ車など次世代カーの需要の高まりにより、新たに高度な技術を持つ自動車整備士の育成が求められるようになったのに加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、不特定多数と接触せずにすむ車内空間が見直されたことが挙げられる。事実、自動車の売上は中古車市場を中心に回復しており、これにともない専門学校唯一の「自動車整備」も今後のさらなる成長が期待できそうだ。

建造物の建て替えやインフラ整備の需要により、好調が続く「土木・建築」は10年連続の増加で15,432人に。この10年で初めて1万5千人を超えた。「測量」は前年より減少したが、実数では78人の微減である。前年比マイナスとなったのは「測量」を含めて「電気・電子」「機械」の3系統である。

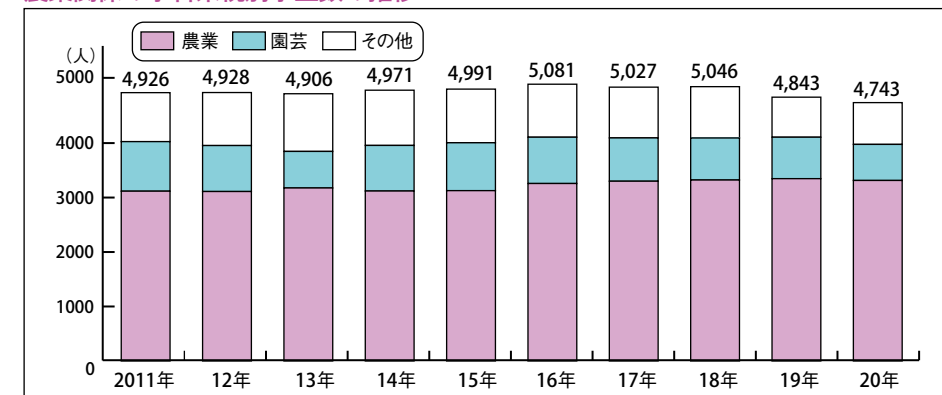
## ■ 農業関係／学生の7割が「農業」を学ぶ

農業関係の学生数は専門学校全体の1%に満たず、5千人前後と小規模ながら、基本的には増加基調にある成長分野である。ただし今年度は昨年度に引き続き減少。100人減少して4,743人になった。内訳では「農業」が33人、「園芸」が99人減少した一方、「その他」が32人増えて767人になった。関係内の構成比は「農業」(69.9%)が7割を占めている。

工業関係の学科系統別学生数の推移



農業関係の学科系統別学生数の推移



専門学校の学科系統別学生数(工業／農業)

工業関係	2011年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
測量	397	354	415	390	449	463	438	469	509	431
土木・建築	8,368	8,565	9,018	10,005	11,107	12,482	13,479	14,039	14,541	15,432
電気・電子	3,092	3,145	3,044	2,863	2,643	2,492	2,216	2,135	2,139	2,120
無線・通信	697	640	571	530	485	505	412	396	415	448
自動車整備	17,895	17,664	18,388	18,939	19,330	18,520	17,832	17,744	17,347	17,551
機械	763	854	845	840	863	735	860	828	1,095	1,002
電子計算機	3,712	3,704	3,471	3,240	3,263	3,227	3,256	3,942	3,775	4,067
情報処理	26,501	25,448	25,236	24,948	24,764	24,892	26,158	27,976	29,850	33,266
その他	15,406	15,007	15,100	15,179	14,578	15,344	16,476	17,655	19,904	21,276
計	76,831	75,381	76,088	76,934	77,482	78,660	81,127	85,184	89,575	95,593

農業関係	2011年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
農業	3,117	3,111	3,176	3,120	3,127	3,258	3,300	3,332	3,347	3,314
園芸	910	844	671	837	879	850	795	772	761	662
その他	899	973	1,059	1,014	985	973	932	942	735	767
計	4,926	4,928	4,906	4,971	4,991	5,081	5,027	5,046	4,843	4,743

# 専門学校の学生数の推移(医療／衛生)

専門学校の学生数の推移(医療／衛生)

## ■ 医療関係／「看護」の学生数が9万人台で安定

医療関係は8分野の中で最も学生数の多い分野である。今年度は183,236人で30.3%を占め、2位の文化・教養(21.5%)を8.8ポイント引き離している。

系統別では「看護」の学生数が93,101人と圧倒的に多く、医療関係の過半数(50.8%)を占めている。看護師はその人気の高まりを受けて近年、4年制大学にも養成課程が次々と開設。今では全養成校の4分の1を看護系大学が占める一方、看護専門学校の学生数は微減・微増を繰り返しながら9万人台で安定しており、「看護教育の大学化」の影響はそれほど上がらない。やはり最短の3年で資格が取得できることに加え、実践力を鍛える専門学校の教育には揺るぎない訴求力があるようだ。2020年は新型コロナウイルス感染症による医療現場の逼迫が報じられ、特に看護師は相当なハードワーク、という印象を一面で世間を与えた。このことが看護師を目指す若者にどう影響するか、また臨床実習先をどう確保するか、養成校には学生募集につながる新たな課題も生まれている。

「看護」の次に学生数が多いのは「理学療法・作業療法」で31,879人。これに「臨床検査」3,470人、「診療放射線」3,006人を加えると関係内の占有率は20.9%になり、5人に1人がコ・メディカル職(医師・看護師以外の医療従事者)を志望している。

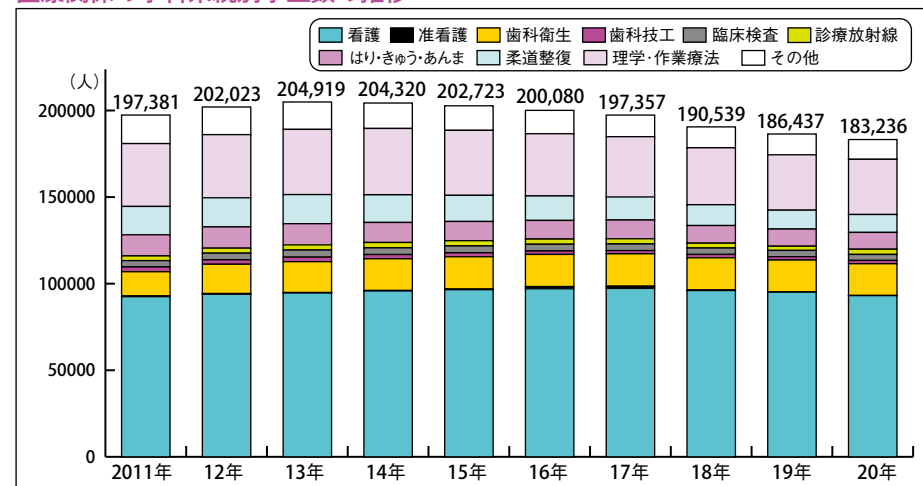
## ■ 衛生関係／「調理」を除く5系統で前年比増

衛生関係の学生数は68,222人。791人の微増ながら7年ぶりに増加した。

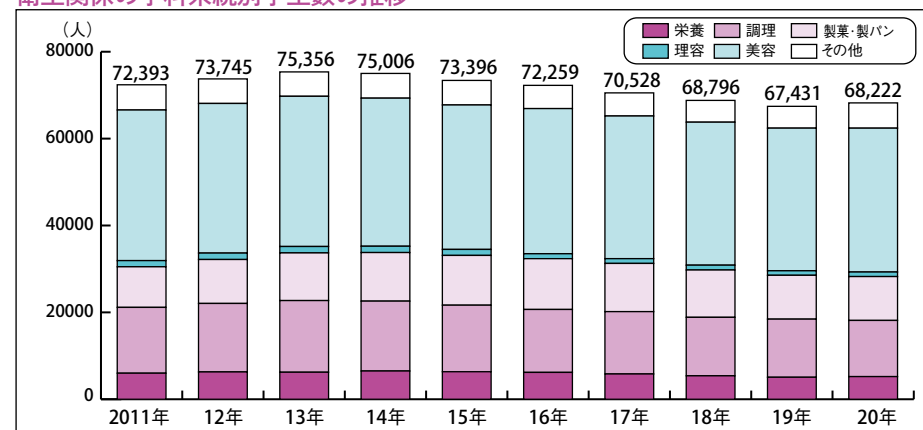
この分野では「美容」の学生数が最も多く、今年度は33,114人で分野内の構成比は48.5%を占めている。「理容」の学生数1,047人を加えると34,161人で、衛生の全学生数のちょうど5割(50.1%)だ。なお今年は「美容」「理容」ともプラス成長になったが、「その他」が796人増の5,816人に拡大したことで構成比はわずかに後退した。「美容」については今後、国家戦略特区で外国人留学生の就労が可能になることから、さらなる学生増が期待されている。

「栄養」「調理」「製菓・製パン」の食関係では、「調理」が12,929人で最も多く、「製菓・製パン」の10,098人、「栄養」の5,218人と続く。コロナ禍による飲食店の苦境を懸念してか、今年度は「調理」が衛生の全系統でも唯一の前年比マイナスとなったが、専門学校の関係者は新たな就職先を開拓するなど努力している。

医療関係の学科系統別学生数の推移



衛生関係の学科系統別学生数の推移



専門学校の学科系統別学生数(医療／衛生)

医療関係	2011年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
看護	92,509	93,897	94,608	95,791	96,536	97,054	97,265	96,039	95,074	93,101
准看護	375	393	262	267	357	1,269	1,262	268	128	72
歯科衛生	14,004	16,925	17,837	18,316	18,657	18,567	18,735	18,633	18,454	18,339
歯科技工	2,774	2,569	2,613	2,450	2,286	1,990	1,845	1,947	1,929	1,908
臨床検査	3,646	3,827	4,108	3,861	3,961	3,883	3,833	3,711	3,617	3,470
診療放射線	2,717	2,895	2,970	3,099	3,030	2,990	2,999	2,774	2,434	3,006
はり・きゅう・あんま	12,203	12,279	12,244	11,565	11,089	10,764	10,812	10,198	9,917	9,710
柔道整復	16,370	16,822	16,800	15,984	15,087	14,148	13,331	12,032	10,892	10,342
理学・作業療法	36,302	36,458	37,653	38,300	37,548	35,928	34,799	32,874	31,989	31,879
その他	16,478	15,958	15,824	14,687	14,172	13,487	12,476	12,063	12,003	11,409
計	197,381	202,023	204,919	204,320	202,723	200,080	197,357	190,539	186,437	183,236

衛生関係	2011年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
栄養	5,999	6,290	6,221	6,504	6,338	6,183	5,821	5,397	5,065	5,218
調理	15,151	15,766	16,499	16,086	15,318	14,488	14,352	13,465	13,379	12,929
製菓・製パン	9,345	10,117	10,968	11,183	11,457	11,694	11,098	10,893	10,094	10,098
理容	1,424	1,479	1,479	1,455	1,381	1,133	1,098	1,113	1,039	1,047
美容	34,669	34,442	34,577	34,086	33,253	33,417	32,839	32,917	32,834	33,114
その他	5,805	5,651	5,612	5,692	5,649	5,344	5,320	5,011	5,020	5,816
計	72,393	73,745	75,356	75,006	73,396	72,259	70,528	68,796	67,431	68,222

# 専門学校の学生数の推移(教育・社会福祉／商業実務)

専門学校(教育・社会福祉／商業実務)

## ■ 教育・社会福祉関係／「介護福祉」が2年連続の増加

教育・社会福祉関係の学生数は31,069人で、8分野中の構成比は5.1%である。内訳を見ると「保育士養成」と「教員養成」の合計が18,048人で、関係内の58.1%を占有する。今年度は「保育士養成」が340人増え、逆に「教員養成」が572人減ったが、両方の資格を有する「保育教諭」を配置する認定こども園の増加により、保育士と幼稚園教諭のニーズはともに高まる一方だ。養成校には大学も多いことから、学生募集については専門学校ならではの強みを打ち出すことが差別化に向けた課題と言える。

高齢者や障害者の福祉分野も大学と競合するが、今年度は「介護福祉」が2年連続して増加。790人増の9,870人になり1万人台に迫っている。2018年に在留資格「介護」が創設・施行され、介護系専門学校を卒業した外国人留学生の就労が可能になったことが好調の一因だが、留学生のメインの入口である日本語学校の今年度入学者は入国制限の影響で激減。今後の動向が懸念される。

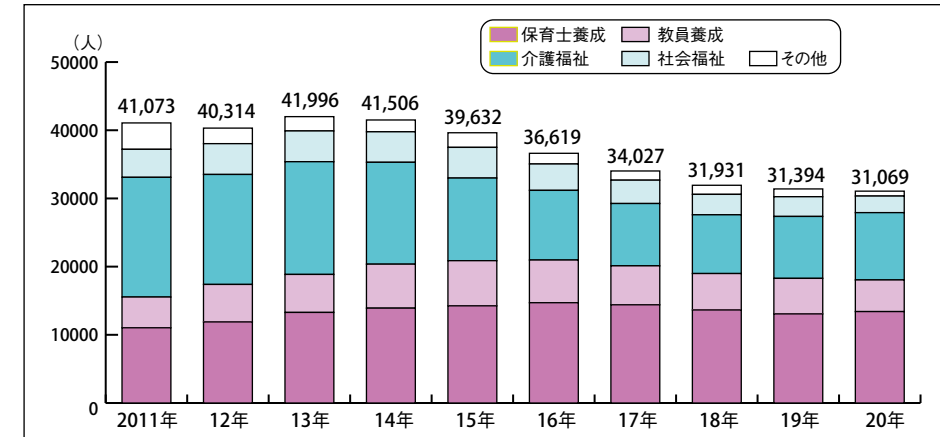
## ■ 商業実務関係／「旅行」が1万8千人台に

商業実務関係の学生数は6年連続で増加し、この10年で最高値の75,298人を記録した。全分野に占める割合は12.5%で前年と同率である。

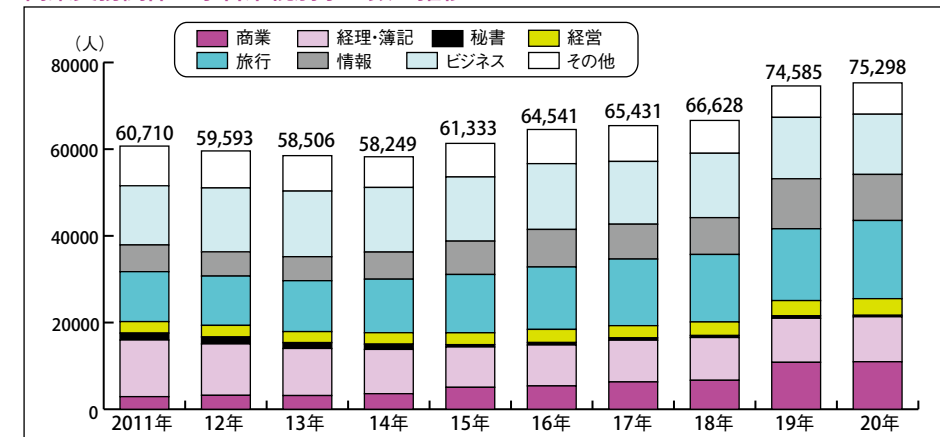
学生数が最も多いのは「旅行」の18,033人。8年連続で増加したが、今年度は1,471人増(8.9ポイント)と前年を大きく上回り、16万人台から一挙に18万人台に躍進。関係内の占有率も23.9%に拡大した。ただし「旅行」を含む観光系はコロナ禍で成長ストップを余儀なくされたことから、観光業界の回復状況いかなでは学生数も大きく変動するかもしれない。

「旅行」の他にプラス成長したのは「商業」「経理・簿記」「経営」の3系統である。「商業」は前年、6,682人から10,825人と急伸したが、今年度は131人の微増に留まった。前年の大幅増加の要因のひとつは外国人留学生によるものだったことから、コロナ禍の影響が数字上に表れ始めた、と捉えることもできる。同じく外国人留学生が多い「情報」は、920人減って10,627人に。前年が3千人規模の増加だったことを踏まえると、「商業」と同じ懸念がつきまとっている。他にマイナスになったのは「秘書」「ビジネス」「その他」の3系統である。

教育・社会福祉関係の学科系統別学生数の推移



商業実務関係の学科系統別学生数の推移



専門学校の学科系統別学生数(教育・社会福祉／商業実務)

教育・社会福祉関係	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
保育士養成	11,033	11,892	13,283	13,912	14,252	14,708	14,403	13,646	13,069	13,409
教員養成	4,509	5,497	5,574	6,449	6,620	6,261	5,713	5,342	5,211	4,639
介護福祉	17,555	16,128	16,530	14,939	12,119	10,216	9,140	8,614	9,080	9,870
社会福祉	4,108	4,517	4,511	4,473	4,498	3,869	3,423	2,997	2,891	2,432
その他	3,868	2,280	2,098	1,733	2,143	1,565	1,348	1,332	1,143	719
計	41,073	40,314	41,996	41,506	39,632	36,619	34,027	31,931	31,394	31,069

商業実務関係	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
商業	2,908	3,210	3,163	3,589	5,060	5,383	6,304	6,682	10,825	10,956
経理・簿記	13,065	11,859	10,858	10,215	9,306	9,440	9,620	9,862	10,160	10,374
秘書	1,597	1,611	1,357	1,221	539	577	541	473	586	344
経営	2,649	2,669	2,537	2,632	2,735	3,021	2,818	3,122	3,499	3,838
旅行	11,520	11,373	11,740	12,351	13,452	14,400	15,367	15,570	16,562	18,033
情報	6,164	5,593	5,536	6,255	7,693	8,661	8,043	8,495	11,547	10,627
ビジネス	13,656	14,740	15,137	14,905	14,806	15,177	14,476	14,851	14,159	13,889
その他	9,151	8,538	8,178	7,081	7,742	7,882	8,262	7,573	7,247	7,237
計	60,710	59,593	58,506	58,249	61,333	64,541	65,431	66,628	74,585	75,298



# 専門学校の学生数の推移(服飾・家政／文化・教養)

専門学校の学生数の推移(服飾・家政／文化・教養)

## ■ 服飾・家政関係／4人に3人が「和洋裁」で学ぶ

学生数は16,545人。前年度はわずか4人の減少となったが、この5年は増加基調にあり、今年度は3.1ポイント(496人増)の上昇。全分野の2.7%を占める。

服飾・家政関係の特徴は「和洋裁」(12,758人)の学生数が圧倒的に多いことである。関係内の実に77.1%を占め、4人に3人強が「和洋裁」で学んでいる。学生推移も好調で、今年度は5年連続、4.1ポイント(504人増)上昇した。「和洋裁」に次いで学生が多いのは「ファッションビジネス」の2,891人。「和洋裁」と合計すると94.6%になる。

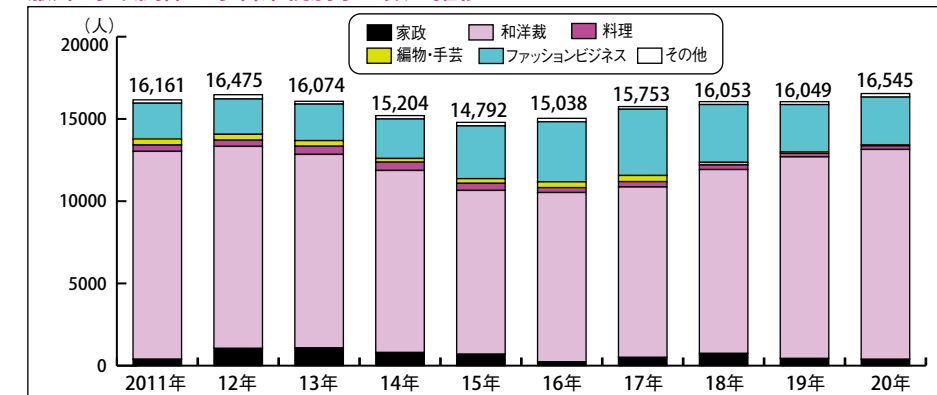
## ■ 文化・教養関係／「動物」の学生数が過去最高

文化・教養関係の学生数は9年連続で上昇。今年度は2,153人増えて129,709人と30万人に迫った。全分野中の構成比は21.5%である。

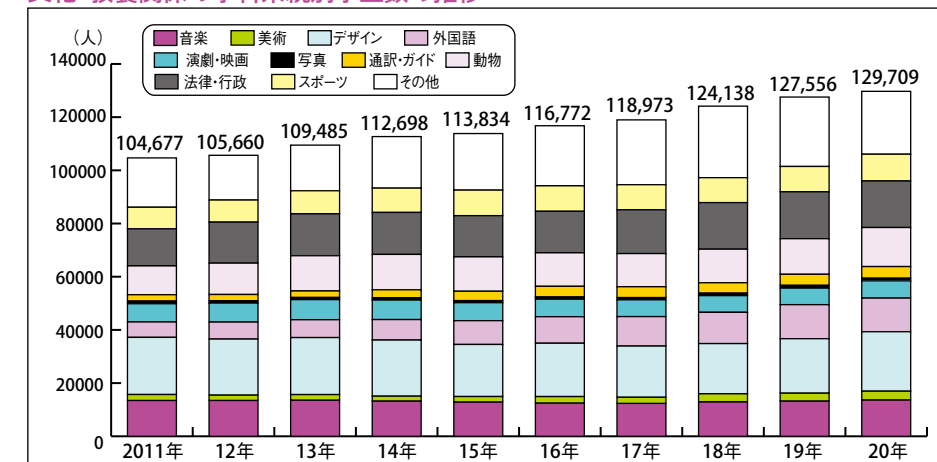
文化・教養関係は全11系統で、2万人規模の「その他」(23,644人)と「デザイン」(22,362人)を別格にすると、他の系統はその時々トレンドによって目まぐるしく順位が入れ替わる。この10年は特に現在6番手の「外国語」の台頭が著しく、2010年の5,784人から上昇の一途を辿って2019年には12,793人に。10年前の2倍以上に成長したが、今年度は11年ぶりに前年比マイナスの12,639人となった。実数では154人、下げ幅では1.2ポイントに過ぎないが、「外国語」の学生は観光系の就職も多いことから、コロナ禍の影響が気になるところである。「外国語」より上位の3位「法律行政」は0.7ポイント減の17,514人、4位の「動物」は9.6ポイント増の14,679人、5位の「音楽」は3.0ポイント増の13,705人。この3系統の中では特に「動物」が好調で、3年連続の増加により統計開始以来、初の1万4千人台に達した。コロナ禍に絡めると、在宅時間の増加にともないペット需要が高まったことから今後の見通しも明るいのではないかと。さらに「動物」は、国家資格の「愛玩動物看護師」が創設されたことも追い風になるだろう。

学生数が前年から減ったのは4系統で、「外国語」と「法律行政」以外は「写真」と「その他」である。「写真」は52人の微減ながら1千人を割り、「その他」は9.4ポイントのダウンで26,097人から23,644人に減少した。

服飾・家政関係の学科系統別学生数の推移



文化・教養関係の学科系統別学生数の推移



専門学校の学科系統別学生数(服飾・家政／文化・教養)

服飾・家政関係	2011年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
家政	390	1,050	1,080	801	697	229	503	745	438	387
和洋裁	12,638	12,281	11,764	11,067	9,957	10,298	10,359	11,178	12,254	12,758
料理	386	380	500	508	432	299	329	278	217	222
縫物・手芸	370	354	340	222	285	349	373	160	84	70
ファッションビジネス	2,174	2,149	2,219	2,399	3,206	3,654	4,027	3,516	2,881	2,891
その他	203	261	171	207	215	209	162	176	175	217
計	16,161	16,475	16,074	15,204	14,792	15,038	15,753	16,053	16,049	16,545

文化・教養関係	2011年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
音楽	13,488	13,493	13,626	13,304	12,932	12,553	12,383	12,994	13,308	13,705
美術	2,225	1,972	2,065	1,776	2,023	2,389	2,287	2,995	2,899	3,252
デザイン	21,486	21,095	21,433	21,105	19,577	20,054	19,259	18,873	20,497	22,362
外国語	5,784	6,393	6,703	7,705	8,941	9,967	11,079	11,757	12,793	12,639
演劇・映画	6,859	7,151	7,556	7,349	6,761	6,598	6,310	6,271	6,223	6,492
写真	1,000	891	816	812	788	824	838	930	1,039	987
通訳・ガイド	2,398	2,327	2,453	3,048	3,508	4,001	4,082	3,918	4,157	4,386
動物	10,835	11,787	13,243	13,295	12,939	12,610	12,468	12,616	13,388	14,679
法律・行政	13,936	15,417	15,757	15,779	15,498	15,599	16,461	17,513	17,633	17,514
スポーツ	8,116	8,310	8,674	9,143	9,598	9,590	9,437	9,378	9,522	10,049
その他	18,451	16,751	17,095	19,313	21,184	22,492	24,281	26,806	26,097	23,644
計	104,677	105,660	109,485	112,698	113,834	116,772	118,973	124,138	127,556	129,709

# 高等専修学校の現状

## ■ 404 校に約 3 万 4 千人が学ぶ

2020 年の高等専修学校(専修学校高等課程)の数は 404 校。内訳は国立が 1 校、公立が 6 校で、私立が 397 校と全体の 98.3% を占める。多様な生徒のニーズに柔軟かつ迅速に対応する私学教育が、小規模ながらも後期中等教育における多様な学習機会の提供に大きな役割を果たしていることは間違いない。

生徒数は 34,075 人で、前年より 996 人減少した。少子化の進行にともなう 15 歳人口の減少により規模的には縮小傾向が続いている。しかし高等専修学校の特色である職業教育や、生徒一人ひとりに目が行き届く少人数教育は、一般の高校とは異なる役割を担う教育機関として、後期中等教育に欠かせない存在となっている。「なりたい職業」があり、その分野を早くから勉強したいと望む生徒をはじめ、不登校などの問題を抱える者、さらには高校中退者の学び直しや、就職・転職を考える者の再チャレンジの場としてなど幅広く機能している。

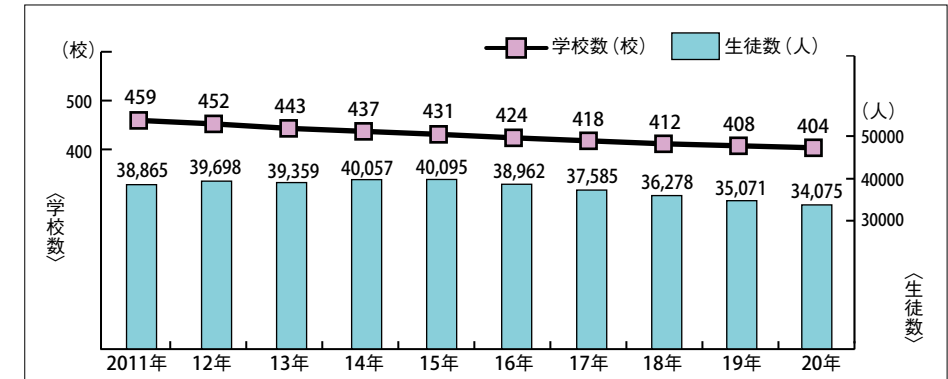
修業年限別に学科を分類すると、535 学科中、5 割を超える 283 学科 (52.9%) が 3 年制以上である。最も多いのは 3 年～3 年 11 ヶ月の 277 学科 (51.8%) で、以下、2 年～2 年 11 ヶ月の 188 学科 (35.1%)、1 年～1 年 11 ヶ月の 64 学科 (12.0%) となる。今年度は 3 年制以上が 11 学科増加した。

生徒数は 3 年～3 年 11 ヶ月に全体の 70.6%、24,063 人が学んでおり、1 学科あたりの生徒数は 86.9 人。1 学年単位にすると 30 人近くで、他の修業年限より多いものの、少人数クラスで学んでいることがわかる。

## ■ 「医療」と「商業実務」がほぼ 5 割

分野別に見ると「医療」(8,516 人)と「商業実務」(8,145 人)が 8 千人規模と抜きん出ており、この 2 分野で全生徒数の 48.9%、ほぼ半数を占める。続く 4 千人規模は「工業」(4,634 人)、「衛生」(4,819 人)、「文化・教養」(4,598 人)の 3 分野。このうち「衛生」と「文化・教養」が前年より増加した。特に「文化・教養」は 4 年連続の増加で、全分野に占める構成比も 13.5% に上昇し、「工業」の 13.6% に迫っている。資格系の職業分野の中では「衛生」が伸びる一方、「好きなことを学ぶ」というニーズに応える「文化・教養」が好調を維持しているのは、高等専修学校教育の振り幅の広さと言えよう。

高等課程を置く学校数・生徒数の推移



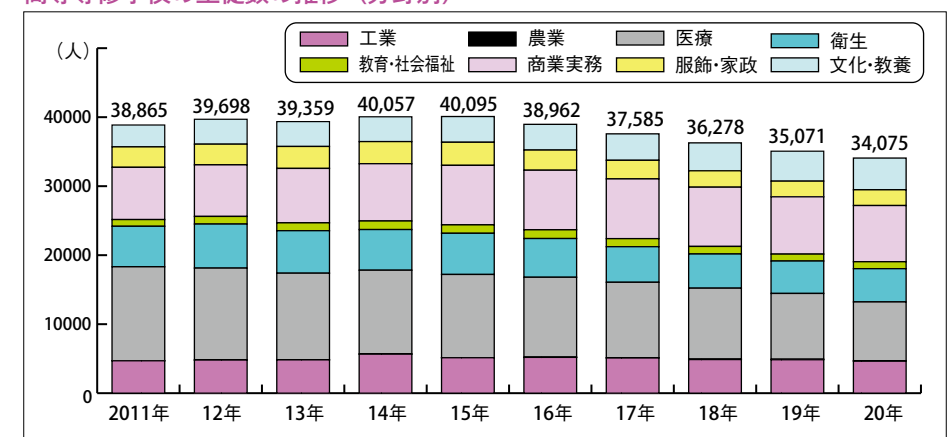
高等課程の学校数・学科数・生徒数・入学者数(2020年度) 高等課程の修業年限別学科数・生徒数(2020年度)

	学校数				計		学科数				計
	国立	公立	私立	計			1年～1年11ヵ月	2年～2年11ヵ月	3年～3年11ヵ月	4年以上	
学校数	1	6	397	404		64	188	277	6	535	
	0.2%	1.5%	98.3%	100%		12.0%	35.1%	51.8%	1.1%	100%	
学科数	1	7	527	535		736	9,253	24,063	23	34,075	
	0.2%	1.3%	98.5%	100%		2.2%	27.2%	70.6%	0.1%	100%	
生徒数	6	438	33,631	34,075							
	0.02%	1.3%	98.7%	100%							
入学者数	1	165	13,535	13,701							
	0.01%	1.2%	98.8%	100%							

高等専修学校の生徒数(分野別)

	2011年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
工業	4,696	4,804	4,829	5,654	5,138	5,189	5,102	4,872	4,847	4,634
農業	6	6	6	38	5	21	38	67	79	74
医療	13,615	13,318	12,555	12,129	12,064	11,590	10,932	10,280	9,529	8,516
衛生	5,870	6,383	6,158	5,893	5,966	5,612	5,157	4,954	4,697	4,819
教育・社会福祉	976	1,106	1,140	1,242	1,222	1,266	1,168	1,095	1,004	1,008
商業実務	7,571	7,475	7,887	8,302	8,625	8,635	8,658	8,587	8,305	8,145
服飾・家政	2,962	2,997	3,183	3,205	3,345	2,922	2,696	2,377	2,269	2,281
文化・教養	3,169	3,609	3,601	3,594	3,730	3,727	3,834	4,046	4,341	4,598
計	38,865	39,698	39,359	40,057	40,095	38,962	37,585	36,278	35,071	34,075

高等専修学校の生徒数の推移(分野別)



# 専修学校一般課程の現状

## ■ 154校に約2万3千人が学ぶ

専修学校一般課程の設置者は私立が大半で154校中153校(99.4%)を占める。国立はなく公立が1校である。生徒数は22,684人で、公立の生徒数がわずか3名であることから、ほぼ100%が私立に通っていると言っていい。私立1校あたりの生徒数は148人で、前年より23人減少した。入学者数は全体で前年より4,037人減少して22,164人である。

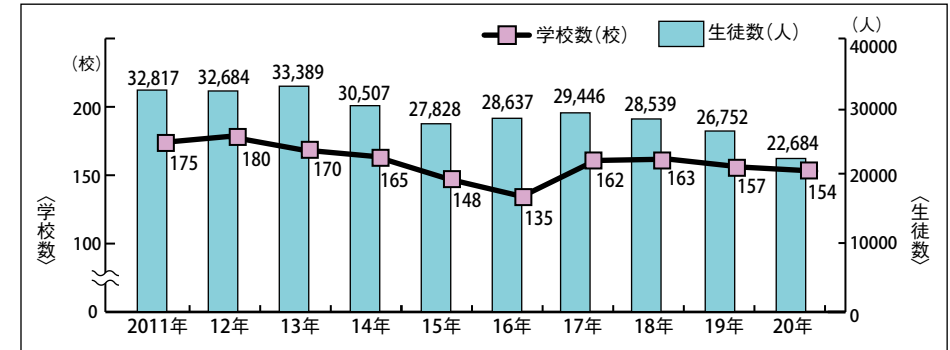
学科数は257学科で、修業年限別に見ると、1年～1年11ヵ月が204学科(79.4%)、2年～2年11ヵ月が38学科(14.8%)、3年～3年11ヵ月が15学科(5.8%)の構成である。生徒数で見ると22,079人、全体の97.3%が1年～1年11ヵ月の課程で学んでいる。

## ■ 文化・教養関係の「受験・補習」が圧倒的

分野別の在籍者数では、文化・教養関係が21,959人と圧倒的な学生数を誇る。前年より4,058人減少したものの、全体の96.8%を占めている。その内訳は、「受験・補習」が20,370人と最多で、関係内に占める割合は92.8%、全関係の占有率でも89.8%に達している。「受験・補習」とはおおむね予備校や学習塾のことで、生徒は大学受験を上限として未成年が中心であることから、少子化の進行により長期的には緩やかな減少傾向を示している。事実この10年間でも1万人以上減少したが、それでも2万人規模で推移していることに、衰えることのない「公教育以外の学び」のニーズがうかがえる。今後は中高一貫校の人気の高まりにより中学受験の塾・予備校はもとより、2020年から小学校で英語とプログラミング学習が必修化されることから、生徒の低年齢化がさらに進むかもしれない。

文化・教養関係を除くと学生が在籍するのは、工業、衛生、商業実務、服飾・家政の4分野。合計数は725人で、実数では10人減ったものの、学生総数の下げ幅が大きかったことから、構成比は2.7%から3.2%に上昇した。この4分野を対象にそれぞれの構成比を見ると、衛生関係が69.9%と最多で、続く服飾・家政関係が21.1%。この2関係で9割を超えている。

一般課程を置く専修学校の学校数・生徒数の推移



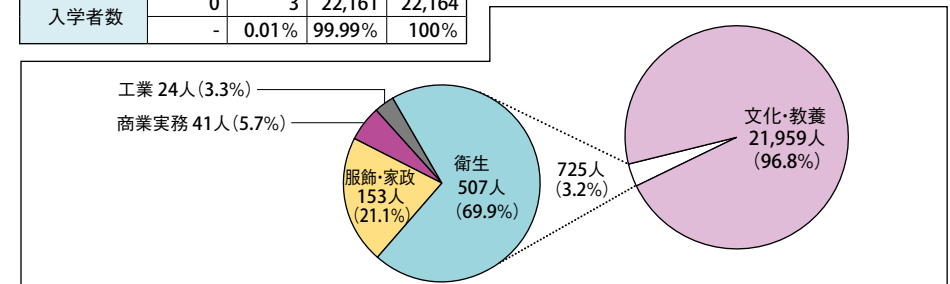
一般課程の学校数・学科数・生徒数・入学者数(2020年度)

	国立	公立	私立	計
学校数	0	1	153	154
	-	0.6%	99.4%	100%
学科数	0	1	256	257
	-	0.4%	99.6%	100%
生徒数	0	3	22,681	22,684
	-	0.01%	99.99%	100%
入学者数	0	3	22,161	22,164
	-	0.01%	99.99%	100%

一般課程の修業年限別学科数・生徒数(2020年度)

	1年～1年11ヵ月	2年～2年11ヵ月	3年～3年11ヵ月	4年以上	計
学科数	204	38	15	0	257
	79.4%	14.8%	5.8%	-	100%
生徒数	22,079	271	334	0	22,684
	97.3%	1.2%	1.5%	-	100%

一般課程の分野別在籍者数(2020年度)



一般課程の学科系統別学生数

	2011年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
工業関係合計	27	83	28	15	16	16	25	8	16	24
農業関係合計	83	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療関係合計	112	132	96	106	92	90	6	0	0	0
衛生関係合計	828	760	743	644	561	593	587	603	520	507
調理・栄養	515	483	455	319	262	152	147	132	132	138
美容・理容	94	106	124	155	136	306	324	362	316	282
製菓・製パン	175	144	134	144	140	121	103	109	72	87
その他	44	27	30	26	23	14	13	0	0	0
教育・社会福祉関係合計	5	5	4	0	0	0	0	0	0	0
商業実務関係合計	90	92	94	180	93	108	84	44	49	41
経理・簿記	79	86	86	174	86	102	77	37	42	34
その他	11	6	8	6	7	6	7	7	7	7
服飾・家政関係合計	787	797	579	507	561	311	282	271	150	153
和洋裁	502	471	452	393	478	237	226	217	136	139
料理	179	218	42	30	0	0	0	0	0	0
編物・手芸	95	88	76	74	74	74	56	54	14	14
その他	11	20	9	10	9	0	0	0	0	0
文化・教養関係合計	30,885	30,815	31,845	29,055	26,505	27,519	28,462	27,613	26,017	21,959
美術	349	339	357	328	339	356	413	458	458	374
デザイン	114	101	69	83	103	90	89	104	99	100
受験・補習	30,192	29,836	31,042	28,234	25,657	25,455	27,194	25,135	24,094	20,370
その他	230	539	377	410	106	1,618	766	1,916	1,366	1,115
総合計	32,817	32,684	33,389	30,507	27,828	28,637	29,446	28,539	26,752	22,684

# 各種学校の現状

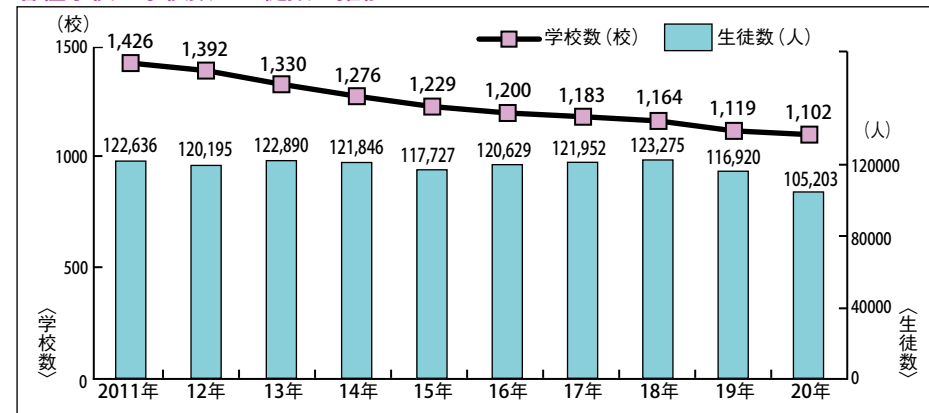
## ■ 私立 1,096 校に約 10 万 5 千人が学ぶ

学校数は 1,102 校。国立はなく公立が 6 校あるが、各種学校在籍者の 99.5% を 1,096 校の私立が担っている。

2020 年度の生徒数は 105,203 人。少子化がさほど影響しない各種学校の生徒数は 12 万前後で増減を繰り返してきたが、今年度は前年より 11,717 人減（10.0 ポイント）と、この 10 年では最大の落ち込みになった。突然の変化と言えることから、「文化・教養」に含まれる「日本語学校」の入学者がコロナ禍により減少したことや、外出自粛も影響していると考えられる。入学者数も 47,468 人から 37,303 人に減少した。

学科数は 1,687 学科で、在籍者数を分野別に見ると、最も多いのが予備校や自動車学校、外国人学校などを含む「その他」で 77,449 人。構成比は 73.6% で 7 割を超えている。次いで「文化・教養」が 14,405 人で、「その他」と合計すると 91,854 人、率にして 87.3% となり 9 割に迫っている。

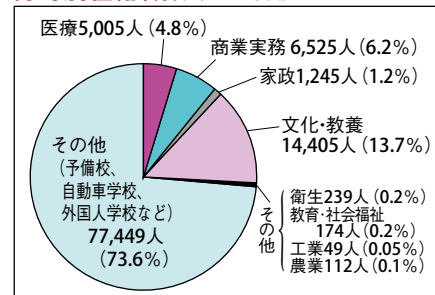
各種学校の学校数・生徒数の推移



各種学校の学校数・生徒数等 (2020年度)

	国立	公立	私立	計
学校数	0	6	1,096	1,102
	-	0.5%	99.5%	100%
学科数	0	13	1,674	1,687
	-	0.8%	99.2%	100%
生徒数	0	499	104,704	105,203
	-	0.5%	99.5%	100%
入学者数	0	347	36,956	37,303
	-	0.9%	99.1%	100%

分野別在籍者数 (2020年度)



## 第Ⅱ部

# 専修学校関連データ集 【東京都編】

[資料] 東京都学校基本調査